

## 不安なく落ち着きのある生活ができるための介護

社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 上北沢ホーム

青木 千晴、小磯 哲也

(不安 落ち着き 表情)

### 1. はじめに

上北沢ホームに入所されたAさんが一日を通して、不安な生活を送られていることが見られた。そこで私達は、どうすればAさんが不安から解放されるのかという方向で考え、いくつか取り組んだ結果を報告する。

### 2. 対象者と方法

対象者Aさんは女性で要介護5（一部介助）、アルツハイマー型認知症である。Aさんが不安から解放されるために3つのことを取り組んだ。1つ目はAさんの特技や気分転換の実施、2つ目は椅子センサーオフについて、3つ目は家族動画を見ることでAさんの様子を知る。以上、3つのことを実施し、Aさんの不安が解放されるかを見ていくことにした。



### 3. 結果

#### (1) 特技（書道）や気分転換（散歩）

書道に関しては書く意欲がある時とない時に分かれる。また、少し思い出すのかやりそうになることが見られた。表情が硬くなったり、「どうして？」など不安そうな言葉が聞かれる事が多くあった。

散歩に関しては表情が硬かったり、全く関心を示さない様子が見られたが、時より落ち着いた様子も見られた。

#### (2) 椅子センサーオフ前後の変化（職員へのアンケートより）

##### ①以前と変わったこと

言葉のキャッチボールがつながることが増え、表情が緩くなったことで言葉が明瞭になった。他の利用者に気遣いや世話をやくなど親切心が見られるようになり、積極性も生まれた。

##### ②変わった理由

環境面や雰囲気慣れてきたことで安心感が出てきた。また、自由に歩けるようになったことで活発になり、Aさんのストレス軽減につながったと考えられる。

### (3) 家族動画

書道や散歩の結果に比べて話す言葉の数と種類が増えきたことがわかった。時間帯では午前中、夜間帯はニコニコされたり笑顔で過ごされたりすることが多かった。また、動画に興味を示すことが多かった。ご主人を認識して話されているように思える結果も見られた。



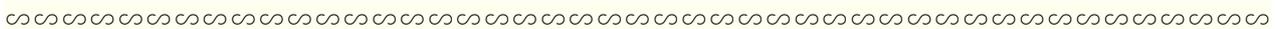
## 4. まとめ

不安そうなAさんに家族動画等、外から働きかけでも関心が見られる時と見られない時があった。

また、椅子センサーを使用しなくなったことでAさんの落ち着きが見られ、穏やかな表情の時間が増え、発語の回数や種類が増えたことがわかった。職員も、Aさんと一緒にフロアを歩いたり、隣に座ってみたりなど、積極的にAさんに関わることが増えた。

新たな課題として、なぜ、時間帯によってAさんの様子が違うのか、どうすれば時間関係なく不安なく過ごすことができるのかを考える必要がある。

最後に、特に家族動画の取り組みがコロナの中で面会もできずに寂しい思いをさせているAさんにとって貴重な時間だったのではないかと考えられる。この研究を通して、利用者一人ひとりに合った不安の取り除き方があると思われる。そのため、フロア職員からの様々な意見やケアを追究していきたいと考える。



### <助言者コメント>

中原 ひとみ (社会福祉法人古木会成城アルテンハイム施設長)

不安が何なのか、なかなか手がかりを見つけるのは困難と思いますが課題を見つけ、それに対して検証し、解決に結び付けていることに深い感銘を受けました。

相手の気持ちをどのようにして理解するか、解りやすかったです。特に椅子のセンサーオフの前後の様子が大きく変わっており、センサーが本人の大きなストレスになっていたのかな？と考えさせられました。

職員が協力してご本人が穏やかに過ごせるようケアを提供しており、今後も頑張っていたきたいものです。

普段のケアの中で見過ごしがちなところに目を向けており、今後もさらに問題点を追及していかれることを希望します。